

重層的支援体制整備事業における支援の流れ（例）

①認知症で介護が必要な高齢者の世帯で、無職で、引きこもり状態で、精神障害の疑われる50歳代の娘と、小中学校は不登校で就職経験もない17歳の孫が同居、孫が高齢者の世話をし、高齢者の貯蓄や年金やで生活しているが、デイサービスの利用料、税、公共料金に滞納があり、困窮し始めてきた。地域包括支援センターのケアマネジャーが、訪問時にそのことを初めて発見し、相談支援包括化推進員に支援のコーディネート依頼した。

②相談支援包括化推進員は、庁内の関係課、市内の支援機関の参加による重層的支援会議を招集し、対象世帯の情報を共有。メンバー間で支援プラン検討し、支援策をコーディネートした。

1号 (包括的) 相談支援

- ・地域包括支援センター 等
- ・福祉事業所での相談支援



福祉事業所・ケアマネ

つなぐ

相談支援包括化推進員

招集



④引きこもりがちな50代の娘と、17歳の孫に対しては、住居にアウトリーチ支援員が何度も訪問して支援。半年後、娘は通院開始。その後、地域活動支援センターへ通所。孫は参加支援へ通所。

4号 アウトリーチ等を通じた継続的支援

- ・アウトリーチ支援員
- ・支援プランの作成 (6号)



訪問支援

サービス提供等

③支援プランに沿って、多機関の専門性や機能を活かし、連携・協働して支援を開始。電子@連絡帳で情報共有。高齢者はデイサービスに加えホームヘルパーを利用。娘、孫は家計改善支援と食料支援開始。

5号 多機関協働事業

- ・相談支援包括化推進員
- ・重層的支援会議
- ・支援プランの作成 (6号)
- ・電子@連絡帳で情報共有



地域包括支援センター、障がい者基幹支援センター、生活支援センター、アウトリーチ支援員、庁内(高齢介護課、障がい福祉課、国保年金課、収納課、水道課、他)が、**連携・協働(チーム)で支援開始**

3号 地域づくり

- ・共助の基盤づくり (食糧支援)
- ・地域活動支援センター (障がい者)

サービス利用



サービス利用

2号 参加支援

- ・(例) 農業収穫体験への参加
- ・就労準備支援⇒面接⇒就職



⑤社会体験の乏しい17歳の孫は、収穫体験のプログラムに参加し、対人恐怖を克服して1年半後にアルバイト就職。

古河市の重層的支援体制整備事業の全体像

